

は し が き

諸状況の変化が著しい現代そして近未来を生きて行く児童生徒たちに、課題の発見や収集する情報の観点設定から情報の創造まで、情報を活用する力を向上させるための指導をすることは、新しい教育課程でも重視しているように、非常に大切な事です。

ところで、情報の活用というとコンピュータを筆頭にした情報機器の活用がクローズアップされています。これも大切なのですが、原点にかえて、一人一人の脳の活用にも、もっと力を注ぐ必要があります。脳生理、認知、創造などに関する研究が進歩している現在、これらからの知見に学びながら、手立ての開発や改善に取り組むことが必要です。

イメージマップは、一人一人の個性的な物事の見方・考え方などと関連性を持たせながら、情報を活用して行く道具です。それも手作業ですので、情報の洗い出しから再構成までの、すべてのプロセスで自分の状況を確認しながら、主体的に進められます。この類の手立ては、「わかる」にも結びつくことが、認知心理学の知見から明らかになっていますので、本県の長年の課題であります、学力向上のための手立てにもなり得ます。

イメージマップはこのように、重要な役割を担う可能性があるのですが、研究が質・量とも不足しています。このような状況の中ですので、本報告の内容もまだこれからという段階です。

イメージマップを、教師にも児童生徒にも一層使いやすく、汎用性と深みのある情報活用支援の道具にするためには、まだ非常に多くの研究課題を解決して行かねばなりません。それには、継続的な実践と理論や仮説検討を積み重ねる事が必要なわけですが、本報告がそのための踏み台になれば幸いです。

終わりに、実践に終始熱心に取り組まれ、研究の推進に協力を惜しまれなかった協力員各位に深く敬意を表しますとともに、協力員所属校の校長先生はじめ諸先生に対し心からお礼申し上げます。

平成3年3月

新潟県立教育センター所長 海 藤 是 夫